

令和 2 年 7 月 10 日現在

機関番号：36302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K12309

研究課題名(和文)セクシュアリティ向上アプローチ法の開発に関する研究

研究課題名(英文)Study on development of approach to improve sexuality

研究代表者

三木 佳子(Miki, Yoshiko)

聖カタリナ大学・人間健康福祉学部・教授

研究者番号：60584175

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：セクシュアリティの治療的コミュニケーション技術を抽出し、実践状況を明らかにすることが目的である。9人の皮膚・排泄ケア認定看護師のケア場面の会話を質的記述的に分析した。9つの特徴の治療的コミュニケーション技術と4つの局面があった。

皮膚・排泄ケア認定看護師は知識を基盤に経験と直感で治療的コミュニケーション技術を用いてセクシュアリティに介入した。基盤知識はセクシュアリティの定義と主観的セクシュアルウェルビーイング、セクシュアリティ満足度指標であった。治療的コミュニケーション技術は、日常のストーマケア/ケアリングの延長で発揮し、患者の語りを促進し、セクシュアルウェルビーイングを高める支援となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は経験豊富な看護師のケア実践における会話からセクシュアリティの治療的コミュニケーションを抽出したことにある。実践からの抽出は活用可能性を意味する。また、参加者は先行研究で明らかにしたセクシュアリティの定義、支援目標、質問項目を事前に学習した。事前学習内容が明確であり基盤となる知識が明らかである。

基盤となる知識が明確であり実践から抽出した治療的コミュニケーション技術は、臨床で活用の可能性のみならず即応性も高い。これまでではセクシュアリティの支援に自信がなかった看護師が活用し実践するようになると、支援を受けられる患者が増加する。看護師、患者の両者に還元できる社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：To discover therapeutic communication techniques concerning sexuality and clarify the situation in which they are practiced. Conversations of nine Certified Nurses in Wound, Ostomy and Continence Nursing in care settings were analyzed using the conversation analysis method. There were nine characteristics of therapeutic communication techniques on in four phases.

Certified Nurses in Wound, Ostomy and Continence Nursing intervened to assist patients with their sexuality by using therapeutic communication techniques based on knowledge combined with experience and intuition. The underlying knowledge they used was definitions of sexuality, subjective sexual well-being and the sexuality satisfaction index. Therapeutic communication techniques have been demonstrated as an extension of daily stoma care/caring, helping to promote patient narratives and leading the patients to increase sexual wellbeing as a goal.

研究分野：看護学

キーワード：セクシュアリティ コミュニケーション 皮膚・排泄ケア認定看護師 関係 性的問題 性機能障害
会話分析 看護

1. 研究開始当初の背景

近年、わが国では、セクシュアリティの支援が看護師の役割として言及されるようになってきた。看護学辞典には、セクシュアリティの説明の中に「看護師の役割は、健康障害から生じる性の問題の克服と適応を促すことである」と記されている¹⁾。人は、性的な対象者と良好な関係になることを「幸せな状態」と呼び、人生の良き伴侶を得て良好な関係が続く状態を「幸せが続く」と言う。疾病や障害を抱える人は、疾病や障害の影響で性に関する問題を抱えていることが少なくない。性の問題は恥ずかしさから患者は自分から話すことは少なく、誰にも打ち明けられずに一人で思いあぐねている人もいる²⁾。看護師は性の関連する問題を抱える人と真摯に向かい合い、性の問が解決できるように取り組むことの重要性が唱えられている³⁾。セクシュアリティの支援の必要性を認識しているものの、患者の方から質問をしない限り、看護師は性の問題に対応していない⁴⁾。患者の訴えが少ないことから医療職者も問題として捉えず、性の健康問題は十分に検討されていない現状がある⁵⁾。性の相談に応じる看護師は知識が備わっており自信がある看護師に限られている⁶⁾。

性という言葉は性交という性的な行動として認識されやすい。看護師は性を全人的に捉えようとする傾向があることから、看護領域における研究は全人的な意味を包含するセクシュアリティという概念を用いてきた。全人的に捉えようとしたことで外枠が広がり、かえって定義は不明瞭になった⁷⁾。全人的な意味を包含するセクシュアリティの本質が明らかにすることが、知識不足を改善の第1歩になると考え、セクシュアリティの概念分析を行った。概念分析の結果、保健医療者はセクシュアリティの本質を「個人の性的特性と性的対象者との相互作用」と捉えて活用していることを発見した。「個人の性的特性と性的対象者との相互作用」を保健医療領域における活用可能な定義として提案した。また、肯定的な性的特性や親密な関係に帰結することでウェルビーイングの状態になる構造を示した⁸⁾。この定義を基盤にセクシュアリティ満足度指標 (Sexuality Satisfaction Index in patients with Inflammatory Bowel Disease、以下 SEXSI-IBD) を開発し「個人の性的特性と性的対象者との相互作用」の項目には、「日常の相互作用、性の困難度、性的関心度、スキンシップの重視度が含まれることを示した⁹⁾。さらに、「当事者が捉える性的に幸福で満足できる状態」と定義した主観的セクシュアルウェルビーイング (subjective sexual well-being、以下 SSWB) は、性的満足を充たすことのみならず、精神的安定や円滑なコミュニケーションと捉えていることを明らかにした¹⁰⁾。保健医療者はセクシュアリティを支援するときに個人的な価値観にとらわれない当事者の SSWB を重視した支援の重要性の根拠を示した。

しかし、これらの定義や指標は活用性の検証には至っておらず、活用の状況や具体的な会話の方略の説明には不十分である。学会・研修会などで紹介すると参加者から「話題にするタイミングが難しい」「どのように言えばよいのかわからない」という意見が聞かれ、会話が展開される状況とともにコミュニケーションの技術を開発する必要があると考えた。看護師は、「体」と「心」を丸ごと受け止めて支援しており、身体的支援と心理的支援の時間を区別していない。熟練した看護師の会話には身体的ケア技術の実践とともに心理的受容を促す治療的な意味がある「治療的コミュニケーション」¹¹⁾といえる技術を備えていると考える。看護師は、何らかの目的を果たすために合理的な方法を選んで発話する¹²⁾が、その意味や目的を看護師自身が明解に説明できるとは限らない。皮膚・排泄ケア認定看護師 (以下、WOC ナース) は 59.3% に性相談を受けたことがあることが報告されている¹³⁾。WOC ナースのケア場面の会話の中に、WOC ナース自身も意識していない治療的意味を持つコミュニケーションがあると考えた。

2. 研究の目的

WOC ナースが実際にケアをしている場面からセクシュアリティに関する治療的コミュニケーション技術を抽出し、コミュニケーション技術が必要と考えられる状況を明らかにすることを目的とした。どのような状況でどのような技術を使用しているかを明らかにすることは話題にするタイミングを含めた実際の場面でのセクシュアリティに関する支援方法の示唆になる。

3. 研究の方法

1) WOC ナースと患者またはその配偶者との会話について会話分析の手法を用いた質的記述的研究とした。

2) 用語の定義

セクシュアリティは、三木ら⁷⁾の「個人の性的特性と性的対象者との相互作用」とした。治療的コミュニケーションは、法橋¹¹⁾の定義を参考にし、「知識を基盤に経験と直観で展開され、患者が主観的セクシュアルウェルビーイングの方向への変化を意図した会話」とした。

3) データ収集方法

2018年9月から12月の期間、WOC ナースがストーマケアを実践している場面の会話の録音をWOC ナースに依頼した。1人のWOC ナースから1回の場面の会話を録音したICレコーダーを収集した。ICレコーダーからWOC ナースと患者またはその配偶者の発話が交互に出現する逐語録を作成した。ICレコーダーの録音時間は平均28分24秒 (最長74分24秒、最短9分59秒) であった。

4) 会話分析

表1 治療的コミュニケーションの局面・特徴・技術

治療的コミュニケーションの局面	治療的コミュニケーションの特徴	治療的コミュニケーション技術
日常のケアを通じた信頼関係の構築	身体に触れるケアを通じた安心感の提供	セルフケアの実践を賞賛する
		ケアの根拠を示して不安を払拭する
		継続なサポートを確約する
	ありのままを表出できる存在として地固め	言葉を替えて理解を示す
		気がかりに関心を寄せる
		焦点化した問いで日常生活の困りごとを引き出す
話題にしにくいセクシュアリティの話題の導入	セクシュアリティの話題の提案	情報を糸口に性生活の困りごとを探る
		性の価値観について率直な質問で切り出す
	セクシュアリティの言語化の抑圧からの解放	セクシュアリティに関連する発話を反復する
		見え隠れする男性性や女性性の発話を補足する
		セクシュアリティに関連する発話の表現を変えて聞き返す
性的対象者との日常の関係を意識化	性的対象者に対する感情表出のペースに合わせる	
	性的対象者との日常の関係を探る	
セクシュアリティの話題を深化	セクシュアリティを話題にする重要性の分かち合い	セクシュアリティを話題にする重要性を共感する
		セクシュアリティに関する語りに感謝する
	セクシュアリティに関する秘めた思いの吐露を促進	性的欲求や性の関心に関する発話を聞き返す
性的対象者との日常の相互作用から性行為のありさまに話題を切り替える		
肯定的な性的特性と性的対象者との関係の成熟	性的対象者から愛される存在である認識を促進	否定的な思い込みに気づかせる
		性的対象者の態度に思いやりを意味づける
	性的対象者との関係の満足度の向上	性的対象者の存在の強みを反復する
		性的対象者との関係をユーモラスに捉えることを賞賛する
		性的対象者との関係に対する上手な折り合いを賞賛する

会話分析は、共同研究者7名で討論しながら、次の6段階を反復しながら行った。1) 逐語録から、会話の全体の流れを理解する、2) WOC ナースと患者またはその配偶者の発話の意味と意図を解釈する、3) 会話の話題を解釈し、話題の区切りから会話をブロック化する、4) ブロック毎の会話の相互作用から、患者またはその配偶者の発話に影響を及ぼしている WOC ナースの発話の意図の合理性を解釈する、5) 治療的意味があると合理的に解釈できた WOC ナースの発話をコミュニケーション技術として抽出する、6) 治療的コミュニケーション技術の特徴から、全体の構造を検討する。

会話分析は、相互行為理論に基づき人と人とのやりとりを分析する手法である¹²⁾。人と人とのやりとりを録音あるいは録画して、当人にもほとんど記憶に残ることのない細部をゆっくりと観察する方法である。会話の中で、人は一瞬一瞬に「相手がなぜそう言ったか」「私は次にどうしたらいいのか」などの答えを出しながら、ある合理性をもってふるまっている。会話分析は、この相互行為を主観的にならないように、会話をありのままに観察することを重視している¹⁴⁾。

会話分析に特徴的な分析用語には、継続支持、継続催促、継続試行がある¹⁵⁾。継続支持とは続きを聞く用意ができていて、継続支持標識として「はい」「ええ」、頷きがある。継続催促とは語りの継続を求めることであり、非限定的継続催促の標識として「で?」「それで?」など、限定的継続催促の標識として「は?」などの聞き返しがある。継続試行とは、語り手が継続しないとみなしうるときに、語りの次の出来事を提示することである。例えば、「それはちょっと…」と言うと「気になる?」「便がね…」と言うと「出た?」のように、話し手が言語化していない内容を補足することである。

5) 会話分析の信憑性と確証性の確保

分析の信憑性を確保するために、共同研究者7名全員が解釈に納得できるまで分析を繰り返した。さらに、確証性を確保するために対象となった WOC ナース全員に分析結果を郵送し、解釈に誤りがないことを確認した。

6) 倫理的配慮

本研究は、香川県立保健医療大学研究等倫理委員会の承認(承認番号219)を得た後に実施した。研究参加者には、研究の目的、方法、期待する結果と秘密厳守、データの管理方法などを書面で説明した。この説明は、WOC ナースに対しては研究者が、患者あるいはその配偶者に対してはケアを担当する WOC ナースが実施した。本研究における利益相反はない。

4. 研究成果

22の治療的コミュニケーション技術を抽出した。その特徴から9つに分類し、WOC ナースが患者に治療的コミュニケーション技術(以下技術とする)が必要と考えられる状況を4つの局面に分類した。治療的コミュニケーションの局面、特徴、技術を表1に示した。

以下、局面を【 】、特徴を 、技術を で示す。4局面は、【日常のケアを通じた信頼関係の構築】【話題にしにくいセクシュアリティの話題の導入】【セクシュアリティの話題を深化】【肯定的な性的特性と性的対象者との関係の成熟】であった。

1) 【日常のケアを通じた信頼関係の構築】

【話題にしにくいセクシュアリティの話題の導入】の局面に先立ち、【日常のケアを通じた信頼関係の構築】の局面があった。この局面では 身体に触れるケアを通じた安心感の提供 と ありのままを表出できる存在として地固め の2つの特徴をもつ技術を用いていた。

セルフケアの実践を賞賛する ケアの根拠を示して不安を払拭する 継続なサポートを確約する という技術が 身体に触れるケアを通じた安心感の提供 の特徴があった。ありのままを表出できる存在として地固め の特徴がある技術は、言葉を替えて理解を示す 気がかりに関心を寄せる 焦点化した問いで日常生活の困りごとを引き出す であった。

2) 【話題にしにくいセクシュアリティの話題の導入】

セクシュアリティの話題の提案 を行い、セクシュアリティの言語化の抑圧からの解放 を行ったり、性的対象者との日常の関係を意識化 したりすることで、【話題にしにくいセクシュアリティの話題の導入】をしていた。

WOC ナースは、情報を糸口に性生活の困りごとを探る こと、性の価値観について率直な質問で切り出す の技術を用いた。これらは セクシュアリティの話題の提案 の特徴があった。

セクシュアリティに関連する発話を反復する 見え隠れする男性性や女性性の発話を補足する セクシュアリティに関連する発話の表現を変えて聞き返す という技術は、セクシュアリティの言語化の抑圧からの解放 の特徴があった。

性的対象者に対する感情表出のペースに合わせる こと、性的対象者との日常の関係を探る ことは、性的対象者との日常の関係を意識化 の特徴があった。

3) 【セクシュアリティの話題を深化】

【セクシュアリティの話題を深化】の局面においては セクシュアリティを話題にする重要性の分かち合い と セクシュアリティに関する秘めた思いの吐露を促進 の特徴がある技術を用いていた。

セクシュアリティを話題にする重要性の分かち合い の特徴がある技術は、セクシュアリティを話題にする重要性を共感する セクシュアリティに関する語りに感謝する であった。

性的欲求や性の関心に関する発話を聞き返す、性的対象者との日常の相互作用から性行為のありさまに話題を切り替える の技術は、セクシュアリティに関する秘めた思いの吐露を促進 する特徴があった。

4) 【肯定的な性的特性と性的対象者との関係の成熟】

【肯定的な性的特性と性的対象者との関係の成熟】の治療的コミュニケーションの特徴には、性的対象者から愛される存在である認識を促進 と 性的対象者との成熟した関係の満足度の向上 があった。

否定的な思い込みに気づかせる ことや 性的対象者の態度に思いやりを意味づける という技術は、 性的対象者から愛される存在である認識を促進 の特徴があった。

性的対象者の存在の強みを反復する 性的対象者との関係をユーモラスに捉えることを賞賛する 性的対象者との関係に対する上手な折り合いを賞賛する は、 性的対象者との成熟した関係の満足度の向上 の特徴があった。

<引用文献>

- 1) 簗持知恵子 . セクシュアリティ . 看護学事典 (見藤隆子, 小玉香津子, 菱沼典子 編), 391, 日本看護協会出版会, 東京, 2003 .
- 2) 三木佳子 . 女性オストメイトの性生活の困難への対処 . 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 25 : 71-77, 2009 .
- 3) 大石ふみ子, 林さえ子 . がん患者へのケアとエビデンス 患者の安楽の追求とエビデンス セクシュアリティ . がん看護 24 : 200-204, 2019 . 43) Julie W. Nursing practice related to sexuality: A review and recommendations 1: 412-418, 1996.
- 5) 上澤悦子 . 性機能障害をもつ人の看護 生殖系機能障害のある患者の看護 . 成人看護学 (黒田裕子 編), 498-509, 医学書院, 2017 .
- 6) 酒井綾子, 水野正之, 濱本洋子他 . 前立腺がん患者の性に関する看護援助の実態と看護援助経験をもつ看護師の認識 . 日本看護研究学会誌 35 : 57-64, 2012
- 7) 朝倉京子 . わが国の保健医療領域におけるセクシュアリティ概念についての論点 保健医療社会学論集 11 : 82-93, 2000
- 8) 三木佳子, 法橋尚宏, 前川厚子 . わが国の保健医療領域におけるセクシュアリティの概念分析 . 日本看護科学学会誌 33 : 70-79, 2013 .
- 9) Miki Y, Maekawa A, Hohashi N. Development, validity and reliability of the Sexuality Satisfaction Index in patients with Inflammatory Bowel Disease (SEXSI-IBD). Journal of Japanese Society of Stoma and Continence Rehabilitation 32: 7-20, 2016.
- 10) 三木佳子, 前川厚子, 法橋尚宏 . 炎症性腸疾患患者の主観的セクシュアルウェルビーイングと属性別にみた特徴 : テキストマイニングによる自由回答の分析 . 日本看護科学学会誌 38 : 46-55, 2018 .
- 11) Hohashi N. A Family Belief Systems Theory for transcultural family health care nursing. Journal of Transcultural Nursing 30: 434-443, 2019.
- 12) 貫井孝典 . 談話分析の手法と分析例 (1) . 千里金蘭大学紀要 1 : 17-25, 2004 .
- 13) 高橋都, 加藤知行, 前川厚子, 他 . Enterostomal Therapist/Wound, Ostomy, Continence ナースによる性相談の実態調査 相談内容とアドバイスに着目して . 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌 14 : 230-238, 2010 .
- 14) 串田秀也, 平本毅, 林誠 . 会話分析とは何か . 会話分析入門, 1-27, 勁草書房, 東京, 2017 .
- 15) 串田秀也 . 聴き手による語りの進行促進 継続支持・継続催促・継続試行 . 認知科学 16 : 12-23, 2009 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 三木佳子, 前川厚子, 法橋尚宏	4. 巻 38
2. 論文標題 炎症性腸疾患患者の主観的セクシュアルウェルビーイングと属性別にみた特徴 テキストマイニングによる自由回答の分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本看護科学学会誌	6. 最初と最後の頁 46-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.5630/jans.38.46	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshiko Miki, Naohiro Hohashi	4. 巻 1
2. 論文標題 Actual conditions of sexuality and sexual perceptions among IBD patients in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Medical Care Research and Review	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://jmcrr.in/index.php/jmcrr/article/view/14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miki Yoshiko, Hohashi Naohiro	4. 巻 8
2. 論文標題 The Correlation between Sexuality and Family Functioning among Patients with Inflammatory Bowel Disease in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Open Journal of Nursing	6. 最初と最後の頁 717 ~ 730
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/ojn.2018.810054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三木佳子, 澤井尚子, 高木良重, 前川厚子, 法橋尚宏, 國方弘子, 土岐弘美	4. 巻 -
2. 論文標題 皮膚・排泄ケア認定看護師が実践するセクシュアリティに関する治療的コミュニケーション技術: 会話分析による抽出	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JWOCM	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 三木佳子
2. 発表標題 Actual Conditions and Environmental Factors of Sexuality among IBD Patients in Japan
3. 学会等名 22th World Council of Enterostomal Therapists (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三木佳子
2. 発表標題 WOCナースが実施するセクシュアリティの治療的会話
3. 学会等名 第27回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三木佳子
2. 発表標題 SEXSI-IBDとSFE-Jを用いた IBD患者のセクシュアリティと家族機能との相関の検討
3. 学会等名 第25回 日本家族看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三木佳子
2. 発表標題 Elderly Care in Japan
3. 学会等名 International Elderly Care Conference 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshiko MIKI
2. 発表標題 Actual Conditions and Environmental Factors of Sexuality among IBD Patients in Japan
3. 学会等名 22th World Council of Enterostomal Therapists
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三木佳子
2. 発表標題 WOCナースが実施するセクシュアリティの治療的会話
3. 学会等名 第27回 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前川 厚子 (Maekawa Atsuko) (20314023)	名古屋大学・医学系研究科(保健)・教授 (13901)	
研究分担者	法橋 尚宏 (Hohashi Naohiro) (60251229)	神戸大学・保健学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	國方 弘子 (Kunikata Hiroko) (60336906)	香川県立保健医療大学・保健医療学部・教授 (26201)	